

song for you

ils2

## song for you

---

誰かに自分自身の中でくすぶってる何かを伝えたくなる日が突然とやってくる。  
なのに、その相手を探そうにも身近な所に人がいない。  
それは代償。今までの道のりの中でそう歩んできたから。もう、周りには誰もいない。

もう直き日付が変わろうとしている時間帯に、  
室内の照明を点けず机の卓上ランプだけを灯し、  
その傍らにある光度を落としたパソコンの前で、寒さに身を縮こませながらも  
画面を食い入るように見つめていた。

腕を伸ばしてカーテンを少しだけ開けて外の様子を眺めると  
辺り一帯に雪が積もっており、夜更けだと言うのに明るく見通せるこの町並。  
雪の影響でか、ただでさえ少ない交通量はいつも以上に少なく、  
誰彼も口を慎んでいる様に静まり返っている。  
椅子から立ち上がり、カーテンの隙間から更に外の様子を覗き見ても  
歩道は誰の足跡もついてない純白な雪が段々と高さを増していった様子が窺い知れて、  
等間隔に置いてある街頭は、雪の白さを更に強調する様に光を灯しているだけで  
他はいつもと変わらない光景が見えただけ。

昔から変わらない、代わり映えのしない町並みだからこそ  
ふと意識して回想してしまうと込み上げてくるものがある。  
見た目は同じ様でも、あの時感じていた何かはそこには無い。  
その何かを閉じ込めたくて、カメラを片手に何度もシャッターを押して  
PCの中に取り込んでいた若かりし頃。

隙間風が吹く寒い部屋で一人、過去の写真を見返せば  
今はこの世に居ない友達やいつの間にか疎遠になった友達と  
笑い合っ写っている物が沢山出てきて胸を疼かせる。  
このやり場の無い思いは、いつになっても喉元をすぎる事無く  
隙あれば口からでようとしている。

結局声が出る事は無く、白い息だけが吐き出されて  
冷えた室内にとけ込んで消えていく。